

議会活動の在り方検討特別委員会記録

招集（開催）年月日	令和元年１２月１０日（火）	
招集（開催）場 所	岩美町役場 全員協議会室	
出 席 委 員	田中克美委員長、寺垣智章副委員長、橋本恒委員、升井祐子委員、森田洋子委員、吉田保雄委員、杉村宏委員、宮本純一委員、川口耕司委員、澤治樹委員、柳正敏委員（副議長）	
欠 席 委 員	なし	
議 長 の 出 席	あり 足立義明議長	
職 務 出 席 者	鈴木議会事務局長	
傍 聴 者	なし	
開 会	１３時００分	
記 録 者	議会事務局 前田書記	
調 査 事 項	別紙日程表のとおり	
協 議 の 経 過		
日 程	発 言 者	内 容
開会	田中委員長	＊起立、礼 始める。 議長、あいさつをお願いする。
	足立議長	議員によっては午前中も委員会（議運）ということで、本会議前 の大変お忙しい中だと思うが、協議事項は議員報酬についてという ことだ。東部議長会においても、県議長会においても、あらゆる機 会に最近このことが頻繁に議論されている。当委員会でも何回かこ の問題について議論されているが、議会としても早いうちに、一定 の方向を皆さんで出していただきたいということをお願いして、あ いさつに代えたい。
	田中委員長	協議事項に入る前に、お詫びと報告をさせていただく。 協議事項を二つ上げているが、これをどう進めるか考えている中 で、葉山町議会の報告を、２月１３日の特別委員会の資料としてご 覧になったことがあると思うが、葉山町議会の議員報酬のあり方につ いての報告があって、それをどれくらいの回数の検討をしている のかを参考にといい、改めて見てみたら、葉山町は議運で報酬のあ り方を検討することを確認している。
		※足立議長、退室（13:02）
	田中委員長	その確認をした議運も含めて、回数が２２回だ。実質的には２０ 回で、そのうち４回を専門家の知見を活用するということで、山梨 学院大学の江藤教授を招いて指導を受けている。しょっぱなに江藤 教授の講義をやっている。講義を聞くことはできないが、全国町村 議会議長会が活動の一環として、２年くらいかけて議員報酬のあり 方を、江藤教授を含めた専門家に検討してもらって、最終報告を今 年の３月に公表した。これが、我々が参考にする文献だと思った。 講義を聞くつもりで、これを読むことが必要だと思った。すでに読

		まれた方もあるかもしれないが、これを読んで疑問や意見を含めて議論をすると。 文字数を概算してみると、12万字くらいだ。単純計算して、1分300字のスピードで読むと、だいたい6時間半だ。2回でできたらと思う。先生方の講義を聞くつもりで読んでいただきたい。章ごとに区切って、意見交換をしながらやっていきたいと思った次第だ。 夜中に思いついたことなので、今朝8時に皆さんにショートメールを送った。救急の話だったので確認できてない方や、すでに自宅を出られた方もあり、何人かが報告書を持参できなかったが、議会事務局にあるものを含めて、回して活用していただくことにした。そういうことなので、協議事項(2)に議会報告についてを上げているが、最終報告を扱う間は、2回になると思うが、この議題については、しばらく置くことにしてはどうかと思っている。 葉山町も江藤教授の講義を聞くことから入っているので、講義を聞くつもりで、ということでした了解をいただきたいが、どうか。
	杉村委員	毎回申し上げているが、やることをやってから議員報酬については議論すべきだ。議員報酬と政務活動費について、協議事項に上がってくることは反対だ。後からにすべきと思っている。
	田中委員長	「議員報酬の議論は、今はすべきでない」という意見があるが、どうか。
	吉田委員	私は、確かに議員報酬のあり方を考えることは永遠だろうなど。議員をやっていれば、永遠に続く問題だと思う。ここでけりがつくようなものでもないような気がするが、一応けりをつけなければならぬと思う。議論をしてでも、片付けなければいけないと思う。
		※足立議長、入室(13:10)
	宮本委員	認識に差があると思うが、少しずつでも前に進むことが大事だと思う。仮に、私に「委員長席に座ってやれ」と言われても、到底できない。田中委員長の下で、一步一步進みたい。よろしく願います。
	田中委員長	少なくとも、議員報酬を今上げる議論をするということではない。議員報酬調査特別委員会でもそうだったが、さまざまな観点や問題に関わる話だ。報酬を上げるか、上げないかにとどまらないことだ。ぜひ、検討することについて賛同していただきたい。 杉村委員、いかがか。
	杉村委員	賛同はしない。 だが、皆さんの意見でよい。
	田中委員長	進めさせてもらってよいか。
	柳委員(副議長)	それぞれ意見があって、皆さんの意見は違うが、ここは委員長が仕切ってやるべきだ。諮ることをせずに、出された以上は粛々と進められるべきだと思う。
協議事項(1)	田中委員長	進めさせてもらおう。

		橋本委員から。
		※「読むのか」の声あり。
	田中委員長	読むことを馬鹿にしないでいただきたい。 講義を聞くことは、拒否されないと思う。それと同じだ。
		※「進行」の声あり。
		※平成31年3月に、全国町村議会議長会（町村議会議員の議員報酬等のあり方検討委員会）が公表した「町村議会議員の議員報酬等のあり方最終報告書」を順に朗読
	橋本委員	*「第1章 最近の町村議会の動向と報酬等の課題」朗読
	升井委員	*続けて朗読
	森田委員	*続けて朗読
	吉田委員	*続けて朗読
	田中委員長	第1章を読んで、気づいたことはないか。疑問点や分からないことはないか。分かる範囲で局長が答える。
	吉田委員	岩美町の特別職報酬等審議会の委員は、前議員とか元議員になっておられるのか。
	田中委員長	昔、合併前の東部町村会で特別職報酬等審議会をつくっていて、各町村から一人ずつ出ていた。それは、ほとんどが助役経験者とか、議長経験者とか、そういう人たちだった。全国的にもそうだったようだ。それで、「お手盛りだ」との批判があった。そういう反省を踏まえて、岩美町で最近つくった審議会は、そうではない人たちで構成している。
	鈴木議会事務局 局長	現在のメンバーは、商工会会長、自治会長会からの推薦、連合婦人会会長、男女共同参画審議会会長、公募による方1人の5人だ。
	田中委員長	議会を傍聴された方が何人おられるかは分からない。 議員のなり手不足というものの、解決の一つの側面という観点がある。報酬は現職議員のためだけではないという観点もある。 ほかになれば進む。
	寺垣副委員長	*「第2章 議員報酬・定数等に関する調査結果の分析」朗読
	杉村委員	*続けて朗読
		※足立議長、退室（14:09）
	杉村委員	*続けて朗読
休憩	田中委員長	休憩する。 14時15分 休憩
再開		※足立議長、休憩中に入室 再開する。 14時25分 再開
	宮本委員	*続けて朗読
	田中委員長	第2章について、感想も含めて何かあるか。 定数が18人から12人になったときには、実感した。6人減ったときには、選挙の動きを地域がつくらなかった。
	川口委員	定数削減の経過で、極端に6人減らされたが、そのときには報酬

		の観点の議論にはならなかったのか。
	田中委員長	定数を削減するから報酬をという議論はなかった。 ほかに。
	川口委員	18人のときの報酬を、そのまま引き継いでいるということだな。
	田中委員長	「減らせ」という方は、行政改革の見方で「減らせ」と言われていた。「定数を減らすので報酬を上げる」という議論は、そもそも出ない。「単独自立でえらいから減らせ」という話だ。
	足立議長	だが、一方では「本当によいのか」という意見もあった。
	田中委員長	定数を減らすことに反対したのは、私と柳議員と、太田さんだったかな。最終的には2人だったと思う。
	柳委員（副議長）	そのときは間違いなく合併議論の中で、議会の保身のことを言われる方もおられて、「ならば3分の1減らす」という代替案を出されたというような経過を伺ったこともある。そのころ私は出たばかりの議員だったので、中身は詳細には分からないところもあるが、伺ったのは、「議会も身を切る」ということだった。18人くらいいたほうが民意が反映されると思ったので、最終的に反対した。 実際12人になってから、役割分担が1.5倍になったことの中で常任委員会が3から2になり、あれから10年。12人でやっていることを考えると、12人が議会の欠陥体制ではないということを証明するためにも、これは減らすこともないが、増やすこともできないと考えている。できれば、あと2人でも、3人でも増やすことができれば、もっと民意の反映ができると思うが、今は難しい。
	田中委員長	「いろいろな民意が反映できない」という論だが、そのときに有権者数で各地区を計算してみた。田後が一番少なく、有権者数が12分の1になる地区というのが4つしかなかった。5地区は、有権者数が12分の1にならなかった。その計算で田後を1にすると、最低でも定数は16人必要となる。私は、そんな論を主張した。減らすことに反対だけど、減らすとしても16人までだと考えていた。それで田後がやっと1になると。それで田後、網代、東、小田、蒲生は1になる。 それと、小田地区でも岩常みたいな大きい集落は、いつも議員を出していた。集落が推して、個人の同級生や親戚で出していた。それでは足りないようになって、声はあったけど、結局動きにならなかった。昔はそういうのがあってやっていたが、当選に必要な票数が高くなったので、ようしなくなった。出るほうも勇気がいるが、「出えや」というほうも、責任が持てないから動きがなくなった。集落では、実際できなくなった。 その前に報酬は、県内ではほとんどの町村で議員報酬を1割下げた際に議論があり、1割を下げようということだったけど、全員一致にならなかったのを見送った。一人一人の生活にも関わる話なので、多数決で仕切ることはやるまいと、反対があったのを見送った。

	宮本委員	一つ、委員長に尋ねたいがよいか。 私が出る前に無投票だった。それはなぜだと思われるか。
	田中委員長	集落で動きがなくなったからだと思う。前はあった。「あいつを出そうや」とか声はあったけど、１２人になってから、実際の動きにはならなかった。１２人に賛成した人の中でも、１２人になってから「しまった」と反省していた人もいた。いろいろな経験をした人がいて、多種多彩な部分が増える。地域で出すということもあった。ある意味で、「出たい人」より、「出したい人」という側面がある。でも、出したい人を出せる状況ではなくなった。だけど、増やすのは難しい。当時京都で、今は合併して町名もうないと思うが、増やしたところがあった。一度減らしたら、増やすのは至難の業だ。 次の第３章は８ページだが、どうするか。次回に回すか。
		※「次にしよう」との声あり。
	田中委員長	次回、できたら１２月中にやりたい。
		※個々でのやりとりとなり、聴取不能。 ※「１９日は」との声あり。
	田中委員長	１９日の本会議終了後、議会だより調査特別委員会終了後にということが出ているが、よいか。
	皆	*「よい」との声あり。
	田中委員長	皆で一緒に読むが、いずれにしてもできれば目を通してきていただきたい。 では、１９日の議会だより調査特別委員会終了後だ。
閉会	田中委員長	以上で、今日の特別委員会を閉会する。 *起立、礼 １５時００分 閉会

上記のとおり会議の次第を記録し
これを証するため、ここに署名する

議会活動の在り方検討特別委員会
委員長